

『本日も拷問のお時間です』

●葦切（ヨシキリ）

身長178センチ

体重85キロ

年齢30代

識別番号XTーイA

二人一組の拷問官A。

主に、拷問禁止条約に署名していない国の捕虜を、見せしめとして拷問にかけ、映像記録に残すのがお仕事。

存在自体が条約違反なので、表向きは軍の部外者であり、特定の基地に所属がない。

人を殴ったときに骨が折れる感覚で「10ポイントアップ」と思うタイプ。

フランクに暴力が好きだが、サディストかというと別にそうでもない。

倫理観が死んでおり、「仕事として拷問を任されているのでやっている」だけで、プライベートで人をいたぶりたい趣味があるかという点、特にそういうこともない。それはそれとして仕事は楽しんでいる。

基本ぶつきら棒。いつも「何か面白いことねーかな」と思っているふしがある。人を殴ってないときはヤバネビより冷静でテンションが低い。

世話焼き。

●矢羽飛（ヤバネビ）

識別番号XTーイB

身長181センチ

体重75キロ

年齢30代

二人一組の拷問官B。

ヨシキリを補佐する医官。捕虜が可能な限り長く、派手に苦しむようにサポートするのがお仕事。

人体の神秘に魅せられており、拷問は逮捕されない人体実験として楽しんでいる。

予測を立てて結果を得ることに興奮するので、「目にタバスコを入れたらど

1 れくらいで失明するのか。そしてその状態はどうすれば回復するのか」と
2 いうような実験を繰り返して生きている。そしてその実験結果はそこそこ
3 社会貢献に役立っているので「社会の役に立つ素晴らしい仕事にかかわっ
4 ている」と思っている。
5 基本早口オタク。ずっと犬を飼ってみたかった。

7 ●ポチ

8 ヒロイン。

9 記憶をデリートされていて何も覚えていない。

10 ヤバネビが小遣い稼ぎに引き受けた「愛玩用強化人間の耐久度テスト」の
11 ために連れてこられた。

12 ひっぱたかれてもあまり痛がらず、骨が折れても翌日治る。

1 トラック1 こんにちは、ポチ

2
3 【ヒロイン、木箱の中に閉じ込められている】

4
5 SE:ボールで箱を軽く小突く音

6
7 【5】

8 ヨシ「なんだよこのデカイ荷物。最新の拷問器具？」

9
10 【11】

11 ヤバ「今の我々の懷事情でそんなものが買えるわけないでしょう。
12 先日の大失態で仕事を干されてるんですから」

13
14 ヨシ「ふーん。ま、とりあえず開けりゃいいのな？」

15
16 【ヨシキリ、ボールで木箱をこじ開ける】

17
18 SE:ギシ、ギシ

19
20 やば「ああ、丁寧に……！ 中身が傷ついたら困りますから」

21
22 【5】

23 ヨシ「【早口】わかってるって！」

24
25 SE:バキバキ

26
27 ヨシ「は？ 人間じゃねーか！ え？ これ生きてる？ 死んでる？」

28
29 ヤバ「生きてますよ。ほら、目を開けた。

30 民間の非合法的医療機関からの依頼品です」

1 【11】
2 ヤバ「徐々に早口に」フジソウマの卑劣な行いによって現状仕事を干され
3 てはいますが、我々の人体破壊および再生の技術は、度重なる実験
4 によって裏打ちされた一級品。詳細なレポートを書く知識も併せ持
5 っている我々が、軍から依頼される拷問以外の仕事を引き受けると
6 なればそれはもう各企業からありとあらゆるジャンルのオフア
7 が」
8

9 【5】
10 ヨシ「ちよ、うるさいうるさい。で何？ こいつ拷問すりやいいの？」
11

12 ヤバ「いえ、依頼の内容は耐久試験です。
13 愛玩用の強化人間で、売り出す前に実生活での
14 強度データが欲しいと」
15

16 ヨシ「つまり？」
17

18 ヤバ「一ヶ月ほど一緒に過ごして、その間可能な限り粗雑に扱うというこ
19 とですね」
20

21 ヨシ「骨とか折っても？」
22

23 ヤバ「許可です」
24

25 ヨシ「目とか抉ると？」
26

27 ヤバ「不可です。〃日常生活における耐久試験〃ですので、
28 普通の生活でわざわざ目は抉らないでしょう？」
29

30 ヨシ「普通は骨もおらねーって」
31

32 ヤバ「そこは棚の角にでも小指をぶつけた想定で行けるでしょう」

1
2 【ヤバ、ヒロインの正面に回りながら】

3
4 【11↓1】

5 ヤバ「何より、眼球の摘出は不可逆ですからね。

6 強化人間ですので、出血や打撲、骨折程度は治りやすいですし、
7 そもそも傷がつきにくいようにできているはずですよ。

8 【ここで止まる】少し試してみましようか」

9
10 SE:顔を引っぱたく

11
12 【5】

13 ヨシ「ひゅー！ いったそう」

14
15 【1】

16 ヤバ「痛いですか？」

17
18 SE:否定の衣擦れ

19
20 ヤバ「このように、実験体は痛みに強いように作られている。

21 皮膚も強化皮膚ですので……あ、ヨシキリ君ナイフ持ってます？」

22
23 ヨシ「あるけど。つか識別番号で呼べよ。第三者の前だろうが。
24 はいナイフ」

25
26 SE:ナイフしゃきん

27
28 ヤバ「これは人間じゃないのでその規定適応されませんよ。

29 ですよの僕のこと普通にヤバネビと呼んで問題ありません。
30 で、このナイフですが。えーと……右手を出しなさい」
31

1 SE:衣擦れ

2

3 【5】

4 ヨシ「え〜？ 素直に言うこと聞くのそいつ。かわいい〜」

5

6 【1】

7 ヤバ「ここにナイフを刺します」

8

9 SE:やっφ

10

11 ヨシ「日常生活でその怪我ってあり？

12 【つまらなそうに】ってかガチで全然痛がらねーじゃん。

13 痛覚死んでんの？」

14

15 ヤバ「いえ、感じていますよ。ただ耐えられるというだけで。

16 それに、見ての通りナイフが貫通してないでしょう？

17 骨を避けて刺したのに、刃先は手の平に浅く刺さっただけです。

18 そしてこのように」

19

20 SE:ナイフ抜く

21 SE:皿の粘り

22

23 ヤバ「ナイフを抜くと、即座に皮膚に膜が張って血が止まる。

24 どうです？ なかなか壊しがいがあると思いませんか」

25

26 ヨシ「ぶーん？

27 つまりまとめると、日常生活で起こりえる範囲の苦痛で、

28 切断系の不可逆な拷問はナシ。

29 そのうえで、こいつが「耐えられない」って感じるのが

30 どのラインか探るってこと？」

31

1
2
3 【1】
4 ヤバ「制限プレイって燃えますよね」

5
6 【5】
7 ヨシ「いやー……正直、それな。
8 いや燃える燃えるすごい燃える。
9 つかこいつ全然喋んねーな。
10 名前とかどうなってるの？
11 俺殴る相手のこと結構詳しく知りたいタイプ」

12 ヤバ「記憶はデリートされており、箱に詰められる前のことは
13 何も覚えていません。
14 名前も無し。喋らないのは我々が喋るように
15 命令していないからですね」
16

17 ヨシ「あそうなの？ じゃワンって言ってみちよつと」
18

19 【ヒロイン「わん」】
20

21 ヨシ「だっはははは！ 素直！ かわいいー！
22 名前どうしよ。ポチでいい？」
23

24 ヤバ「僕はなんでもかまいま」
25

26 【5→1】
27 ヨシ「【ヤバのセリフにかぶせて】じゃあポチだ！
28 よーしよし。箱から出ようなく、ポチ」
29

30 【ヨシキリ、ヒロインを箱から抱き上げる】
31

32 S E：衣擦れ

1
2 【1】
3 ヨシ「そういえばこいつって飯何喰うの？」
4

5 【8】
6 ヤバ「普通に人間と同じものですよ」
7

8 ヨシ「毒とか食っても大丈夫なの？」
9

10 ヤバ「一応、よほどの猛毒でなければということらしいですが」
11

12 ヨシ「じゃ、ラーメン行こうぜ！ 俺腹減った。
13 ちょうど激辛ラーメンの気分なんだよ。
14 ポチも腹減ったよな？」
15

16 S E：肯定の衣擦れ
17

18 【ヨシキリ、改めてヒロインを肩にかつぐ】
19

20 【4】
21 ヨシ「じゃ、決まりだ。行こうぜヤバさん」
22

23 S E：歩き出す二人
24

25 ヤバ「いいですけど、担いだまま行くんですか……？」
26

27 ヨシ「だってこいつ歩くの遅そうだし。楽しみだなく、ラーメン。
28 こいつ辛くて泣くかもよ？」
29

30 S E：足音二人分フェードアウト
31

トラック2 激辛ラーメン

三人で連れ立ってラーメンを食べにくるほのぼのトラック。

【カウンターで横並びの三人】

【7】

ヤバ「それでははじめますか。激辛十倍地獄ラーメンチャレンジを」

【3】

ヨシ「いつ見てもえげつねえ赤さだ。この、匂いだけで鼻の粘膜がただれる感じ……」

【3 ヒロインを見て】

ヨシ「いいか？ このラーメンを五分以内に、スープまで飲み干すのが今日の拷問だ。覚悟しとけよ？ 辛いっつーより痛いからな」

【7】

ヤバ「狂った店長の悪ふざけで生まれたチャレンジ商品。辛いものの好きの間でも〃限度がある〃と言われ、完食すれば味覚障害の烙印を押された挙句、見舞金の名目で1万円の賞金がついてくる」

【7 ヒロインを見て】

ヤバ「ちなみに僕とヨシキリ君は常連なので、食べきっても賞金はもらえません。あなたの健闘をお祈りしますよ。

【ラーメン見て】ではいただきます」

ヨシ「いただきます！ 【ラーメンすすり】おあ……

ガツンとくるわ。この辛さの暴力。一口食っただけで内臓が〃やめろ殺す気か〃って叫ぶのが聞こえてくる」

1 【7】

2 ヤバ「常人ならば、一口目を口元にもっていった瞬間に
3 泣きが入る一品です。

4 我々はこのラーメンいっばいで機密情報を
5 引き出したことすらある。

6 どうですか？ ポチ。あなたにこれが食べられますか？」

8 【ヒロイン、無心に食う】

10 【3】

11 ヨシ「普通に食ってる！？ すっげえ！ すっげ、すっげえなお前！
12 強化人間で味覚ぶっこわれてんの！？」

14 ヤバ「いえ、毒見役の需要もあるので、逆に味覚は過敏な方です。
15 毒には強いので、胃を壊すことはないでしょうが……
16 つまり普通に我々より「辛い」と感じているはずです」

18 ヨシ「確かに顔は赤いし……【笑って】いやこいつ泣いてるじゃん。
19 【嬉しそうに】そっかあ、辛いなあ。辛いなあ、つらいなあ。
20 完食がんばれよう？ 残したら残ったスープ持ち帰って、
21 ケツの穴に流し込んでしまうからな」

23 ヤバ「【麺すすって】ああ、懐かしい。あの時は痛快でしたね。
24 肛門激辛スープ……絵面も字面も間抜けの境地な割に、
25 やられた本人だけは泣き叫ぶほどの痛みと苦痛。
26 しかものちのち排泄の時までもがき苦しむ持続効果。
27 やはり単純でシンプルな拷問は」

29 ヨシ「ヤバさん、食いながらしゃべるのやめなー？ 【ラーメンすする】」

31 ヤバ「はい……【ラーメンすする】」

1 間（ためににラブコメアニメの場面転換でよくあるコミカルな音入れてみ
2 てください。サザエの場面転換音みたいなやつ）
3

4 【ラーメンを飲み干す二人】
5

6 SE：ドンブリ置く×2
7

8 【3】
9

10 ヨシ「ごちそうさまでしたあ！」
11

12 ポチどんな感じ？ お、もうスープだけじゃん」
13

14 【7】
15

16 ヤバ「大量の発汗、止まらない涙、鼻水、唾液。
17 本来ならこの時点で耐えがたい胃の痛みを感じて嘔吐し、
18 吐いた結果胃酸と辛み成分に食道を破壊されて
19 もんどりうつところですが」
20

21 【3】
22

23 ヨシ「でもあと30秒でスープまで飲みきらねーと、
24 お前チャレンジ失敗よ？」
25

26 【3 耳元】
27

28 ヨシ「それともガチでそれケツから飲みてーか？
29 お願いですから口から飲ませてくださいって
30 泣きわめきたくなかったら、とつとと飲みほせよ。
31 ほーらいつき！ いつき！」
32

33 SE：食器がちやり
34

35 SE：飲み干し（嘘ですけど音つけてください）
36

37 SE：ドンブリ置く音
38

39 ヤバ「おお……飲み切った」
40

1 【3】
2 ヨシ「すげー！ ヒーローインタビューだわこれ！
3 味のご感想は？」
4

5 【ヒロイン「美味しかった」】
6

7 ヨシ「美味しかったあ！？」
8 え？ こいつって嘘つけるの？」
9

10 【11】
11 ヤバ「一応、今は我々が主人ですので、
12 その主人に与えられた食事に不満を言えないのでは」
13

14 ヨシ「ふーん？ あ、じゃこうしようぜ。
15 美味かったなら、明日もこれ食わせてやるよ。
16 嬉しいよな？ ぽーち」
17

18 S E .. 頷く衣擦れ
19

20 ヨシ「【拍子抜けして】す……素直だな。
21 少しは嫌そうなそぶりとかしないもんかね。
22 まあ、辛いだけなら俺らと同じ感じなのかもな？
23 普通吐いたり胃から出血コースなわけだし」
24

25 ヤバ「実験のしがいがありそうですね。
26 楽しみになってきましたよ。割と勃起もしてます」
27

28 ヨシ「キショイってそれ真顔で言っても普通に警察に捕まるから、
29 早くトイレ行ってきたー？」
30

31 ヤバ「はっ……」
32

トラック3 導入トラック

ヤバネビとヨシキリの所有する簡易拷問ルームで拷問タイム。
場所は大型トラックのコンテナ。

【ヒロイン、ヤバネビに拷問部屋に連れてこられると、ヨシキリが待っている】

SE：足音二人分

SE：金属系のドアの開閉（コンテナの重たさほしいです）

SE：鎖の音

【9】

ヨシ「あ、お疲れーっす。ポチ暴れずについてきた？」

【15 隣に立つ距離】

ヤバ「のほほんとしたもんですよ。状況が理解できてないんでしょう」

ヨシ「それでは早速、本日の拷問のお時間です。

ってか今更だけど、普通の生活では鎖で拘束しなくね？」

ヤバ「まあ……日常に起こりえる危険を想定しつつ、

我々がやりやすいようにということでレポートまとめますんで」

ヨシ「じゃいっか。ポチ。こっちこい。鎖につなぐから」

SE：はだしの足音数歩

SE：鎖

SE：手かせ

【1】

ヨシ「これでよし。さあーて」

【7 耳元】

ヨシ「どうやっていじめてやろうかな。
どんな拷問がお好みだ？」

トラック3A くすぐり

【1】
ヨシ「じゃ、いったんくすぐりやつとくか」

【3】
ヤバ「初回とはいえ、手を抜きすぎでは？」

ヨシ「まあまあ、そもそも痛みに強いなら、
快樂攻めみたいなやつの方が効くって、
どっかの偉い人も言ってたし」

ヤバ「はあ……まあいいですけど」

SE：ローションのぬるぬる音

ヤバ「やるからには徹底的に。
このローションと触手手袋で、
泣きわめいて過呼吸になるほどくすぐってやりましょう」

ヨシ「やる気すっご。ウケる。
じゃオーソドックスに脇の下から……こちょこちょこちょ」

SE：鎖ガチャガチャ

ヨシ「あ？ くすぐつたい？ くすぐつたがりな方？
じゃこの拷問結構きついぞー？
くすぐりって。大人の男が泣きいれるくらいキツいからな。
ほら脇腹こちょこちょ」

ヤバ「なるほど、痛みには強くてもくすぐりは逆に
脳が過剰に反応して苦しいみたいですね」

1 【3 しやがんで】

2 ヤバ「俄然やる気が出てきました。

3 ローション手袋で全身撫でまわしてあげましょうね」

4

5 SE：ぬるぬる音

6

7 ヤバ「まずはこの足の裏。

8 ほらー、ぬるぬるぬるぬる……」

9

10 SE：鎖ガチャガチャ

11

12 【1】

13 ヨシ「おー、効いてる効いてる。

14 足の裏とか、太ももの付け根って効くよな。

15 あとこれ」

16

17 【7 耳元】

18 ヨシ「耳の中。これもくすぐったいんだよなあ。

19 こうやってなめられたり」

20

21 【耳舐め30秒程度】

22

23 ヨシ「耳に息ふきかけられたりするとき……【息ふきこむ】」

24

25 ヨシ「これ嫌か？ そっかそっか。

26 じゃくすぐりながら耳舐めの系な」

27

28 【耳舐め1分程度】

29

30 ヤバ「あー……ヨシキリ君。

31 それ、くすぐったいっていうか気持ちいいみたいですよ」

32

1 【7】
2 ヨシ「え？ マジ？」
3

4 【3 耳元】
5 ヤバ【「立ちながら」だって濡れてますもん、ねえ？
6 これ、ローションのぬめりじゃないでしょう？
7 僕こゝ触ってませんから」
8

9 S E：水音
10

11 ヨシ「へえ〜？ くすぐりじゃなくて快樂攻めがよかったってこと？
12 確かに、びんびんに乳首たってるもんな？」
13

14 S E：軽くはじく音
15

16 S E：鎖ガチャガチャ
17

17 【7】
18 ヨシ「じゃあヤチ責めにしよっか。
19

20 ヤバさん、触手手袋でポチのクリトリスいじめてやって。
21 俺中に指つつこんでかき回すから」
22

22 【3 耳元】
23 ヤバ「耳も左右から舐めてあげましょうね。
24

25 乳首もこうやって……痛かったり、くすぐったかったり、
26 気持ちよかったりするように、
27 くすぐって、つまんではじいて……
28 押しつぶして、ぐりぐりして……たくさん感じて、
29 泣くほど苦しくなりましょうねえ」
30

30 【ヤバネビ 3で耳舐め1分程度】
31 【ヨシキリ 7で耳舐め1分程度】
32
33

1 【3 耳元】

2 ヨシ「なに？ 変？ 体おかしいって？

3 それな、イキそうってことだよ。

4 イクのはじめてか？ そりゃこえーなあ。

5 初イキが鎖でつるされての拷問なんてかーわいそ」

6

7 【7 耳元】

8 ヤバ「今日は潮吹きできるくらいまで頑張りましたよね。

9 まず一回イってみましょうか。陰核を触手で

10 こうやって、激しく前後にこすってやると……」

11

12 SE:鎖ガチャガチャ

13

14 ヤバ「ほら、イけた。このままイキ狂うまで陰核をこすり続けるのが、
15 はるか昔から行われてきたという女性への拷問です。

16 つらいでしょう？ 苦しいですね？

17 ほら我慢しないと、またイきそうだ。クリクリクリクリ、

18 ゴシゴシゴシゴシ……」

19

20 ヨシ「中からもイイとこ、刺激してやろうな。

21 ほらここ……ぐりぐりすると」

22

23 SE:鎖ガチャガチャ

24

25 ヨシ「そーら、二回目の絶頂おめでとう！

26 これでもう、お前は俺とヤバさんのオモチャだ。

27 押したらピイってなく犬のぬいぐるみ。

28 イケって言ったら嫌でもイっちゃうんだ。

29 こんなふうにな」

30

31 SE:鎖ガチャガチャ

32

1 【3 耳元】

2 ヨシ「ほーらいった。無様な雑魚まんこだなあ」

4 【7 耳元】

5 ヤバ「耳を舐められながら、乳首をいじられて、

6 陰核も膣内も蹂躪されて……

7 空っぽの脳内に快楽を刻み付けられるのはどんな気持ちですか？

8 あとで詳しく聞かせてくださいね」

10 【ヤバネビ 3で耳舐め1分程度】

11 【ヨシキリ 7で耳舐め1分程度】

13 ヤバ「やめてほしくとも、あなたには吐くべき情報もない。

14 我々が飽きるまで、そこで鎖につるされて、

15 イキくるって悶えるしかない」

17 ヨシ【脅して】泣いても漏らしても終わんねーよ。

18 せいぜいいくの我慢すんの頑張れえ〜？」

20 S E :: 鎖の音フェードアウト

21 S E :: 水音フェードアウト

トラック3B 指責め

【1】

ヨシ「ちよつとハードなの行くか。

日常でよくある痛いやつてあれだよな、ほら。
えーとこんな感じで」

【ヨシキリ、ヒロインの右手の小指を折る】

SE:小指折れる音

ヨシ「うっかり小指折れるとか」

SE:鎖ガチャガチャ

ヨシ「あれ、普通に痛がつてる。え、いい声。いい声だわこの悲鳴。
あー。気持ちいい。じゃ次薬指折ってみような」

SE:薬指折れる音

SE:鎖ガチャガチャ

ヨシ「おーお。普通に大絶叫」

【19 数歩離れて】

ヤバ「おそろく、手の指は仕事に使うことが多いので、
怪我を避けるため痛覚を鋭く設定してあるんでしょう。
けど治りは早いですよ。折った指をもとの形に
戻してみてください」

1 【1】
2 ヨシ「それ一番痛いやつな」
3

4 【7 耳元】
5 ヨシ「じゃ、この裏側にバツキリ折れてる指、
6 元に戻るようにまっすぐにしてやろう……な！」
7

8 SE: 骨戻す音（折れる音と同じでいいです）

9 SE: 鎖ガチャガチャ（しばらく鳴らしておく）
10

11 ヨシ「はい、もう一本」
12

13 SE: 骨戻す音（折れる音と同じでいいです）

14 SE: 鎖のおと（少しずつ弱弱しく）
15

16 ヨシ「ふうしとくと、一瞬で治ったりするわけ？」
17

18 【16 数歩離れて】
19 ヤバ「さすがに二日はかかる想定ですから、
20 指を折るのはその辺にしておきましょう」
21

22 【ヤバネビ、16からゆっくり7へ移動】
23

24 【16↓7耳元】
25 ヤバ「次は爪をはがします。
26 人差し指と中指の爪を剥ぎます。A君、ペンチを」
27

28 【1】
29 ヨシ「え？ そんな完全に仕事モードでやる感じ？
30 俺もBさんって呼んだ方がいい？」
31

1
2 【7 1を見て】
3 ヤバ「どっちでもいいですよ。早く爪はがしたいんで、ペンチ」
4

5 【1】
6 ヨシ「わかったわかったごめんて」
7

8 SE:重たい金属音
9

10 ヤバ「興がそがれたんで、巻きで剥がしますよ。
11 はい中指」
12

13 SE:はがす
14

15 SE:鎖ガチャガチャ
16

17 ヤバ「ああ、これも痛いんですね。
18 次は人差し指ですが、これは根っこだけ残してはがします。
19 治り方の違いを見たいので。少し丁寧に……」
20

21 【ヤバネビ、ゆっくり爪をはがす】
22

23 SE:メリメリ系の音
24

24 SE:鎖ガチャガチャ
25

26 ヤバ【苛立って】暴れない！ 手元が狂うでしょう！
27 つたく……まあ、少し不格好ですがこんなものでしょう」
28

29 【ヒロイン「終わりですか？」】
30

【1】

ヨシ「は？ お前今なんつった？

終わりですかつた？ え？

どの面下げて？ どこから目線で？」

ヨシ「あーあ！ 今の聞いて無ければ終わってたかもなあ。

けど終わんなくなっちゃった。お前が余計な口効いたから」

【3 耳元】

ヨシ「普段全然しゃべんねーくせに、余計な質問しちまったなあ」

【7】

ヤバ「いえ、どちらにせよ親指も壊しますよ。

ドアに挟んだ想定で、粉碎骨折させたいので」

【1 7に向かって】

ヨシ「雰囲気作ってんだろうが！ ほらこれ、クランプ」

【ヒロイン、不安そうに道具を見る】

ヨシ「あ、これ？ 気になるよなあ？

木工クランプ。本来は木材とか固定する道具なんだけど、

これに指挟んだ状態で何回かハンドル握れば、

上下から圧力がかかって簡単に指の骨砕けるんだよ」

SE:金属音

SE:ハンドル一回握る音

【7 耳元で】

ヤバ「さあ、固定できましたよ。あと何回ハンドルを握ったら砕けるか、一緒にカウントしましょうか」

1
2 【3 耳元】
3 ヨシ「カウント、手伝ってやろうな。
4 はい、いち」
5
6 SE:ハンドル一回握る音
7
8 【7 耳元で】
9 ヤバ「にーん」
10
11 SE:ハンドル一回握る音
12
13 コシ「きーん」
14
15 SE:ハンドル一回握る音
16 SE:鎖ガチャガチャ
17
18 ヤバ「痛くなってきましたね。
19 ハンドル少し重くなりました。
20 さて……強化人間の骨がどこまで耐えるのか……
21 よん、ご、ろく」
22
23 SE:ハンドル三回握る音
24 SE:鎖ガチャガチャ
25
26 ヨシ「ああ、爪が割れたな。最後は自分でカウントしてみな。
27 多分、あと一回で終わりだから。
28 言わないと一生、そいつに親指締め上げられたまんまだぞ？
29 カウントして、指を砕けば、今日の拷問は終わりにしてやる」
30
31 【ヒロイン、言えずにもがく】

1
2 【3 耳元】
3 ヨシ「言えよ、言えって。
4 言え、言え、言え、言え！」
5
6 【ヒロイン、カウントする】
7
8
9 【7】
10 ヤバ「よくできました。親指にさよならを」
11
12 SE：ハンドル握る
13 SE:碎ける音
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29

トラック3 拷問終了トラック

拷問の終わりを告げるトラック。

【11】

ヨシ「はいお疲れー。今日の拷問はここまでです」

【鎖を外され、床に倒れこむヒロイン】

SE…鎖を外す音

SE…ドサリ

【7】

ヤバ「気絶もせずに、よく頑張りましたね」

【3 耳元】

ヨシ「これから毎日、いろんな拷問して遊ぼうな？」

トラック4 欲情スイッチオン

拷問の怪我がほぼ治ったヒロイン。仕事帰りの興奮したヨシキリによる乱暴セックス

【ヤバネビ、ヒロインの健康チェックをしている】

【1】

ヤバ「すごいな……粉砕骨折すら三日でほとんど完治とは。

はがした爪が生えてくる速度は普通の人間とほぼ同じ。

ただし爪根（そうこん）が残った状態で爪を固定すると、

翌日には再生している。

驚異的な回復力ですね。とても民間企業の技術とは……」

【ヨシキリ、仕事から帰ってくる】

SE:ドア開く

【13】

ヨシ「あのさあ！ 今日の仕事あれ何？

簡単な拷問の仕事だっつってたじゃねーか！」

ヤバ「簡単な仕事だったでしょう？ 悪ガキの更生依頼」

ヨシ「いや拷問の仕事じゃなかっただろうが！

何？ 爪の一枚もはがさないうちから、親父が乗り込んできて、

“うちの息子に手を出すな！” って。

銃にうたれて倒れるふりするなんて関西人しかやんねえよ！」

ヤバ「一応、追加料金で実際に撃たれるパターンも提示したんですけど、

先方がビビってしまっ……」

【ヨシキリ、イライラしながら部屋を歩きまわる】

1 【13↓15】

2 ヨシ「撃たれた方がマシだったっての。」

3 親父がガキ連れて帰った後、ピカピカの拷問器具

4 片づけて帰ってくるときの俺のみじめさ想像できるか？」

6 SE:荷物置く音（重たい金属音混ぜて）

8 【15↓11】

9 ヨシ「俺はバカなガキの悲鳴が聞けると思ってたわくしてたわけ！

10 なんなら命乞いでほぼイキかけだったわけ！

11 どういう意味かわかる？ 寸止めだよ寸止め！」

13 【ヨシキリ、コーヒーマーカーのスイッチ入れる】

15 SE:電子ボタン

16 SE:液体が出る音

18 【11】

19 ヨシ「（コーヒーマー口の中で）あー……コーヒーマーうま。

20 で、帰りながら思ってたんだけどさ。

21 愛玩用強化人間で、普通にセックス奴隷だよな？」

23 【1】

24 ヤバ「そうですね。しかもかなりハードなプレイに耐えられるように

25 開発されているので、かなりハードなプレイに耐えられます」

27 ヨシ「ちよっと今知能指数下がらなかった？」

29 【1】

30 ヤバ「ポチを抱きたいんですか？」

1 【11】
2 ヨシ「いやもう一晩中ぶち犯したいね」
3

4 【1】
5 ヤバ「じゃ、やりましょうか。その辺のホームレスでも
6 五人くらい連れてきて耐久実験やるつもりだったんですが…」
7

8 ヨシ「頑張るわホームレス五人分。
9 ほら見てもう勃ってきた。ポチ、こっちおいで」
10

11 SE:はだしの足音
12

13 【1】
14 ヨシ「じゃ、イラマチオのディープスロットからやるから。
15 はいそこ、お座り」
16

17 SE:座る衣擦れ
18

19 ヨシ「口大きく開けて、喉開いて。せーの……よつと」
20

21 SE:挿入音
22

23 ヨシ「あは、すーっげ。喉までぐっぼり入ったわ。
24 歯あ立てんなよー。ピストン行くぞー？」
25

26 SE:激しいイラマ音しばし流しっぱなしで
27

28 【1】
29 ヨシ「あー、いい。喉の奥、ごりごりやると締まって」
30

31 【ヤバネビ、二人の横に立って観察】

【15】

ヤバ「嘔吐反射で喉が痙攣しますからね。

苦しそうですが……鼻から息はできてますね」

ヨシ「マジ？ 才能アリじゃん。

じゃ抜かなくていいよな。このまま喉の奥で射精するわ。
ほら口すぼめて、舌絡めて」

【ヨシキリ、ヒロインの髪の毛掴んで激しくピストン】

SE:衣擦れ

【吐息1分程度】

ヨシ「【笑って】やばいやばい出る出る！ ちょっとまって

高級オナホよりキモチイいわ。

そら出すぞ！ 胃袋ザーメンでタポタポにしろ！」

SE:射精音

ヨシ「あっはは！ 溢れて鼻から出てるわ。みっともねえ〜。

抜いてやるけど、吐くなよ？ 吐いたらそれ舐めさせるからな」

SE:抜く水音

ヨシ「ほら、お掃除フェラしろ。丁寧にな？」

SE:舐める水音

1 【1】

2 ヨシ「よし、いいいいい。」

3 じゃあ次立って、壁を背中に、こっち見ろ」

5 SE:衣擦れ

6 SE:はだしの足音数歩

8 【3 耳元】

9 ヨシ「俺の首に腕回せ。——よっと」

11 【ヨシキリ、ヒロインの尻を以って抱え上げる】

13 ヨシ「腰に足回せ。このまま奥につっこんでやるからさ」

15 SE:触れる水音

17 ヨシ「なんだよ、濡れてるじゃねえか。

18 濡れてないところねじ込んで、

19 血だらけにしてやろうと思ったのに。

20 これも強化人間の特性？

21 イラマされると濡れるようになってんの？」

23 ヨシ「ま、入れやすくていいか。

24 ってかお前処女？ どうでもいいけど。

25 そら、喜んで食え。美味しい美味しい駄弁ファックだぞ！」

27 SE:挿入音

31

1 【3 耳元】

2 ヨシ「奥まで入っちゃったな。

3 あー……こっちも締まりいいわ。

4 どうだ？ ちんちん美味しいなあ？

5 美味しいって言ってみ？」

7 【ヒロイン「美味しい」】

9 ヨシ「ほんとと素直で……面白みねえよな。

10 【ここからがん付き】なあ！ なあ！

11 ちよっとはやだやだ言ってみたらどうだ？

12 ん？ なんも嫌じゃない？

13 このままヤバさんにケツ掘ってもらうか？」

15 SE:水音

16 SE:肉を打つ音

18 【7】

19 ヤバ「僕が嫌ですけど」

21 【1 7を見て】

22 ヨシ「だから雰囲気！ 作ってんだって！

23 ったく萎えるだろうが。

24 【ヒロイン見て】なあ？

25 んー？ 雰囲気作ってやろうな。

26 ほら舌出せ」

28 【キスハメの吐息1分程度】

30 【1】

31 ヨシ「キスすると締まるな。キス、好きか？

32 なんも考えてねーように見えて、

33 ちゃんと女の子してるじゃねえか」

1
2 【1】
3 ヨシ「あー、出そう。俺がイケって言ったらお前もイケよ。
4 そら、イクイク言いながらアクメ決めろ！」
5

6 【吐息1分程度】
7

8 ヨシ「いいぞ、イケ！ ほらイケイケイケイケ！」
9

10 S E : 射精音
11

12 ヨシ「あー…… 【呼吸整え】すげー出た。
13 ごめんヤバさん。すっきりしちまった」
14

15 【7】
16 ヤバ「はあ？ まだホームレス一人分レベルなんですけど」
17

18 【1 7見て】
19 ヨシ「一回休憩さして！ 一回！
20 その間ヤバさんがやればいいし。
21 ほら、こういうのって休ませない方がいいデータ取れるし」
22

23 【7】
24 ヤバ「【クソデカ溜息】いいですけど……
25 寝室まで運んでくださいよ。
26 僕、駅弁とか疲れること無理なんで」
27

28 ヨシ「【ヒロイン見て】だつてさ。
29 【7 耳元】ベッドでもう少し頑張ろうな。ポチ」
30
31
32

トラック5 限界値チェック

ヒロインの脳はチェックしながら限界まで快楽責めする。

【ベッドに縛り付けられているヒロインを、ヤバネビとヨシキリが囲んでいる】

【10と16を行ったり来たりしながら】

ヤバ「それでは、実験体の強度実験レポートを開始します。

えー、状況としては映像の通り。

実験体の四肢を開脚の状態でベッドに拘束し、

乳首や陰核などの性感帯を露出させてあります。

催淫材や感度の調整などはしておらず、

デフォルトの状態ですが……

これは制作者の趣味でしょうか？

性感帯の感度は通常の人間より高めに設定されているようです。

ですので、乳首と陰核に接触させたローターを動かすと」

SE：スイッチオン

SE：振動音

SE：衣擦れ

SE：鎖

SE：ベッドの軋み

【10】

ヤバ「このように、激しく快楽を感じて身もだえる様子がうかがえます」

【1 ヒロインの顔を除きこみ】

ヤバ「数値で見ると、すでにオーガズムに達しそうですね。

えー……ハイ、一回目のオーガズムを確認。

ここからは数を数えるのがバカバカしいほど

イキッパなしになるのでカウントはしませんが、

最終レポートに数字だけ記載しておきます。

お、またいった」

【1】

ヤバ「この実験の前に、オーガズムを感じたら
自己申告するように命じてあります。
さらに、辛い、やめて、そこ感じる、
などの自己申告もつぶさにするように命じてあるため、
例えばこのようにローターの振動を強くすると」

SE：スイッチ

SE：モーター音（強い）

SE：鎖がちやがちや

【1→3に移動しながら】

ヤバ「この通り，“強くしないで” “またイっちゃう” などの
発話が認められます。では少し強度を上げてみましょう。

【7に向かって】ヨシさん、アナルパールの挿入をお願いします」

【7】

ヨシ「はいよ。これカメラ映るかな？

見て、ローションでぬるぬるです。

サイズは直径2センチから始まって、
一番でかいパールが直径五センチくらいかな」

【7 耳元】

ヨシ「強化人間のケツアナがどのくらい強いかな、実験しないとな。
まず一つ目……二つ、三つ、四つ。まだまだ入るなあ？
五つ、六つ……少し苦しいか？」

SE：セリフに合わせて挿入音

【3】

ヤバ「えー、今挿入したアナルパールにも振動機能がありますので、
こちらにもスイッチを入れて振動を開始します」

SE…スイッチ

SE…鎖ガチャガチャ

【3】

ヤバ「喘ぎ声というか、悲鳴の大きさが一段階上がりましたね。

普通未開発のアナルでこれほど感じることはないので、

こちらも限界まで開発済みの感度と言えるでしょう。

ヨシさん、十秒ほど出し入れしてください」

【7 耳元】

ヨシ「おっけー。じゃ、ぬきまーす」

SE…抜く音

ヨシ「で、また入れる」

SE…出し入れする音

ヨシ「ぬいてー、入れる。ぬいてー、入れる。

っはは！ すーげ。出し入れするたびにイってるわ。

これ潮吹くんじゃねーか？」

ヤバ「ストレス値がだいぶ上がってきましたね。

発話の内容に「嫌だ」が多くなってきました。

ポチ、気持ちいいですか？」

【ヒロイン「気持ちよくない、つらい」】

1 【3】

2 ヤバ「気持ちよくなってつらい。これが実験体の認識です。

3 俗にいうイキっぱなしの状態で、

4 オーガズムから降りてこられず、全身の緊張がゆるめられない。

5 こうなってくると筋肉の痙攣が起ることもあるのですが、

6 まだ大丈夫そうなので、さらに強度を上げていきます。

7 ヨシさん、レポート変わってもらえますか？

8 陰茎腫性交を始めるので」

10 SE：アナルパールの出し入れストップ

12 【7】

13 ヨシ「おっけ。じゃアナルパール奥で固定しとくわ」

15 SE：金具の音（フックをひっかける系）

17 【3→1】

18 ヤバ「ありがとうございます。

19 ちなみに僕の陰茎のサイズは、勃起時で長さ14・7センチ。

20 鬼頭の直径が大体4・8センチです」

22 ヨシ「ちょ初めて知ったし、別に知りたくなかったわその情報」

24 ヤバ「記録を取るのに必要な情報ですよ。

25 サイズ感的には平均よりやや上程度なので、

26 実験体に負荷を与える意味では少々力不足かもしれません。

27 あとで5センチ越えてるヨシさんに頑張ってもらいましょう」

29 ヨシ「残すなよ俺のサイズを企業に提出する記録に！」

31 【3→1】

32 ヤバ「では性交に入ります」

1 【ヤバネビ、ヒロインにのしかかる】

3 SE: ベッドの軋み

5 【1】

6 ヤバ「挿入前に指で一応中の状況を確認します。
7 えー…と」

9 SE: 水音

11 ヤバ「常に膣内が収縮してますね。

12 先ほどから繰り返してる〃イってる〃が
13 嘘ではないことが肉体反応からも確認できます。
14 ここに陰茎を挿入すると……」

16 SE: 挿入音

18 ヤバ「あー……なるほど。これはすごいな。三段締めに
19 カズノコ天井……いわゆる名器と言われる要素を
20 全て一人の人間にねじ込んだような歪さが、
21 恐怖に近い快楽を引き出している。
22 僕が半分不感症じゃなければ入れただけで射精でしたね。
23 すみませんが、腰振つてるときに
24 喋れないタイプなのでしばし黙ります。疲れるので」

26 SE: ベッドの軋み

27 SE: 鎖の音

29 【ヤバネビ、2分程度ピストンの吐息のみ（ヨシキリのセリフに合わせる
30 ）】
31
32

【7 耳元】

ヨシ「だつてさ。じゃあヤバさんのかわりにガンバってレポらないとな。ポーチ。今どんな感じ？」

乳首とクリローターでブルブルされて、ケツの穴もアナルパールで犯されて、そこをヤバさんの生チンでゴリゴリ犯されてんの、どんな気分？」

ヨシ「へーそっか。奥ゴツゴツされるの、嫌なんだ。

腹ポコしてんじゃん。このさ、子宮の上あたり。

押されながらがん付きされると気持ちいいって知ってるか？
試させてやろうな。ほら、ヤバさんに突かれるのに合わせて、ぐ、ぐ、ぐって」

SE：鎖ガチャガチャ

ヨシ「あつははは！ 見ろよヤバさん！

エビぞり絶頂大痙攣。おもしれー！

白目剥いてよだれ垂らしてイキ狂ってる。

まだまだ続けるからな。ほらぐ、ぐ、ぐって。

耳もなめてやろうな」

【ヨシキリ、7で耳舐め1分程度】

ヤバ「ふー……！ ちょっと、僕も一回出します。

絞り取られそうで……！」

【ヤバネビ、1分程度終わりに向かう吐息のちフィニッシュしてください】

SE：モーター音以外ストップ

1 【1】

2 ヤバ「【息整えつつ】新記録ですよ。

3 僕が血を見ないでこんなに早く射精に至ったことはありません。

4 ヨシキリ君、次いけますか？」

6 【7】

7 ヨシ「行ける行ける！ てか、今のでフル勃起したわ。

8 変わって変わって。イキまんこ決りたおしたい」

10 【ヤバネビ、ヨシと場所変わる】

12 SE…ベッドの軋み

14 【ヒロイン「本当にもう無理です休ませてください！」】

16 【1】

17 ヨシ「え？ ヤバさん聞いた？ こいつ休みたいって」

19 【1→10 ヒロインに背を向けて】

20 ヤバ「休ませませんよ。まだ意識あるから余裕でしょうに。

21 僕はちよっと水分補給です」

23 SE…冷蔵庫開ける

25 ヨシ「だめだってよ。じゃ、奥までぶっこみまーす」

27 SE…挿入音

29 【1】

30 ヨシ「あっは！ すっげ！ 中に触手でも飼ってる？

31 熱くて、うねってて、ドロドロのぐずぐずで、

32 前戯なしでやった時より俺の好み」

1
2 【ヨシキリ、ヒロインの頭抱え込む形でピストン】

3
4 SE: 肉を打つ音

5 SE: ベッドの軋み

6
7 【7 耳元で吐息のアドリブ入れつつ、適宜以下のセリフ挟んでください
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

ヨシ「どうだ？ ヤバさんよりでっかいチンコ。

苦しいよな、気持ちいいよなあ？」

ヨシ「あー、すげ、締まる……やばいやばい」

ヨシ「ほら奥、挟ってやるから、ぐりぐり……ぐりぐりって……

えー？ 痛いやだ？ じゃなんでイってんだよマゾかよ変態」

ヨシ「あーヤバ。首噛んでいい？

強化人間の皮膚なら思い切りいいよな。

噛むからな、思いっきり」

【ヨシキリ、ヒロインの首にかみついて1分ほどピストンし、フィニッシュしててください】

【1】

ヨシ「【息整え】あー出る出る。さっき出したのに全然出る。

あー？ おいポチ死んだか？ ポチ、ポーチ」

SE: ほほ軽くピタピタ叩く

【10】

ヤバ「ああ、一瞬気を失いましたね。おそらくセーフティが働いて、しばらく全ての感覚が遮断されると思います」

ヨシ「え？ じゃあ強制的に休憩ってこと？」

1
2
3 【10】
4 ヤバ「そうなりますね。」

5 それでは、僕とヨシさんの勃起力が戻るまで、
6 膣にはピストンバイブを挿入して一番奥で固定しておきましょう。
7 ローターも動かさなければ、ポチがいつ覚醒し、
8 その時どのように感じるかデータが欲しい。
9 僕の予想としては、気を失っている間に何が起こったのか
10 理解するために、蓄積した感覚が一気に脳に
11 流れ込むと思うんですが」

12 【1】
13 ヨシ「なにそれ。エロ漫画みたい。
14 気を失ってる間にいった回数が一気に襲ってきて
15 脳焼きキレて死ぬやつじゃん」
16

17 【10→1】
18 ヤバ「そうすると連続して失神することになるので、
19 まあ100の快楽が50で倍の時間流れ込んでくる
20 感じになるのでは？」
21 “何もしないのに三時間イキっぱなし”とかになるんですよ。
22 かわいそうですね。哀れで」
23

24 ヨシ「え？ピストンバイブやめとく？」
25

26 【1】
27 ヤバ「いえ、入れますよもちろん。スピード最大で。
28 ほら、その萎えた陰茎をとっと抜いて。」

29 この凶悪潮吹き激イかせMAXを入れる場所を開けてください」
30

31 ヨシ「ネーミングセンスだっさ。俺が入れるから貸してそれ」
32
33

1	【1】
2	ヤバ「ああ、はい」
3	
4	SE:ベッドの軋み
5	SE:抜く音
6	
7	【1】
8	ヨシ「えーと、さつき突いてて
9	ポチが一番感じたのは……このへんかな？」
10	
11	SE:挿入音
12	
13	ヨシ「で、これも固定と」
14	
15	SE:金属音
16	
17	ヨシ「スイッチオン！ よし、晩飯食おうぜ！」
18	
19	【ヨシキリ、ベッドから降りる】
20	
21	【1→11】
22	ヤバ「ピザでも取りますか。リビングでこの部屋の映像を
23	大画面でうつしながら」
24	
25	【1→11】
26	ヨシ「いいねー！ で、ポチが目え覚ましたらまた犯そう。
27	長持ちするようにトゲトゲコンドームつかおっかな」
28	
29	SE:歩き去る足音
30	SE:ドア開閉
31	SE:モーター駆動音フェードアウト

1 トラック6 なんとなく日常に

2 三人で食卓を囲んでいるうちに、やたらと二人の間に馴染んでいるヒロイ
3 ンに、逆に違和感を持ち始めるヤバとヨシ。
4 苦しめられているのに平然としているので、ふとヨシキリが「この女の記
5 憶を戻したら普通の反応になるのではないか」と思いつく。

6
7 S E : 食器カチャカチャ

8
9 【10】

10 ヨシ「【もぐもぐ】ポチ、その塩こっち回して」

11
12 S E : コト

13
14 【16】

15 ヤバ「ちようどいい味つけじゃないですか。
16 いいですかポチ。ヨシキリ君は味覚が死んでるんです。
17 この男に合わせて味付けをしたら高血圧のリスクが
18 爆増しますから、言うことを聞いちゃダメですよ」

19
20 ヨシ「なんで激辛ラーメン食える人間が
21 今更繊細な舌アピールしてんだよ……
22 ってかなんでこいつは普通に俺らの飯を作ってたんだよ。
23 そしてどういう神経で一緒に食ってたんだよ」

24
25 ヤバ「それはまあ、愛玩用に開発されてる強化人間ですから、
26 料理方法のインストールくらいは」

27
28 ヨシ「言うて、もとは人間だろ？ 痛がりもするし、
29 一応感情つばいもあるんだし。
30 なんでこう、平然と俺たちといられるかねえ。
31 商品としては大正解なんだろうけど、
32 もうちょいこう、人間味っていうか……
33 感情抑制が効きすぎっていうか……」

1
2 【10】
3 ヨシ「何かのひょうしにうつかり記憶とか戻っちまったら、
4 精神崩壊して道路に飛び出したりするんじゃないの、これ」
5

6 SE:食器の音ストップ

7
8 【16】
9 ヤバ「記憶……戻してみましようか」
10

11 ヨシ「え？ やっていいのそれ」
12

13 ヤバ「本来ならば起こりえないような重大インシデントですが……仮に発
14 生した場合、何が起こるかは企業サイドも知りたいでしょう。
15 【徐々に早口】そのレポートを先んじて作成することで、我々の評
16 価もアップしさらなる案件の獲得につながるということです。この
17 まま軍の仕事を干され続けたとしても、今後はそうして大企業のブ
18 レインとしての地位を新たに獲得するのも悪くは」
19

20 ヨシ「つか、やれんの？」
21

22 ヤバ「理論上は可能です。民間企業が行ってる記憶のデリートは、軍がや
23 るような徹底したものじゃないんですよ。
24 脳に小さなチップを一枚入れて、それによって記憶を阻害している
25 だけなので、チップを破壊してしまえば」
26

27 ヨシ「つてことは脳手術？ リスクたけーつて。いくらヤバさんでも」
28

29 ヤバ「いえ、軍からデバイスを借りられれば一瞬ですよ。
30 軍から、デバイスを、かりられれば」
31
32

1 【10】
2 ヨシ「いいって二回言わなくてわかってるって干されてることくらい。
3 あー……や、でもあるんじゃないかなワンチャン。
4 俺らが仕事干されてる元凶のカスチンコ野郎」
5

6 【16】
7 ヤバ「同僚の女を助けるために軍を裏切ったくせに、
8 有能過ぎて誰も怒れなかったゴミ倫理野郎の話してます？」
9

10 ヨシ「やだー？」
11

12 ヤバ「やだあ」
13

14 ヨシ「やめとくー？」
15

16 ヤバ「やるだけやります。記憶戻すのは絶対やってみたいので」
17

18 【10 ヒロインを見て】
19 ヨシ「だってさ、ポチ。お前記憶戻るかもって。嬉しい？」
20

21 【ヒロイン「わからない」】
22

23 ヨシ「まあわかんねーか。記憶ないんだもんな。
24 ってーか愛玩用強化人間の素体ってことは、
25 どうせスラムのド貧民だろ？
26 顔も体も作り替えられてるんだろうし、
27 記憶戻ったところで「こんなの私じゃない！」になるかもな」
28

29 ヤバ「え？ すごい……それ、いいですね。面白そう。
30 美貌を鼻にかけてるやつ拷問に使えそうだな」
31
32

1 【10】

2 ヨシ「目が覚めたら不細工になってる拷問ってこと？
3 情報吐いたら元の顔に戻す約束したらイケるかなあ」

4
5 【16】

6 ヤバ「え……？ 守るんですか？ その約束」

7
8 ヨシ「守んねーよ。当たり前じゃん」

9
10 【笑い声、二人重ねてフェードアウト】

11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29

トラック7 ここが私の家だから

ヒロインの記憶を取り戻してみようということになり、軍が所有しているデバイスのレンタルを試みるヤバネビ。
無事デバイスを手に入れ、ヒロインの記憶を復活させる。

【9】

ソウマ「何？ 急に連絡してきたと思ったら、
そりゃうちにあるハッキングデバイスなら、
民間企業の脳制御チップなんて簡単に壊せますけどね？
そんな軽々に貸し出せるわけないでしょ。
君らそもそも外部委託業者な上に、
うちからの仕事干されてるんだよ？」

【9】

ヤバ「だれのせいで干されたと思ってるんですか！
多少はあなたにも備わっていてもいいでしょう。
僕たちに負い目的なものを感じる人間的なシステムが」

ソウマ「いや、その節は本当にごめんねえ？
ま、そうだね。この前見逃してもらった恩もあるし…
データ偽装して今日届くように手配しますよ。
でも、使ったらちゃんと返してよお？
おじさん、偉い人に怒られちゃうからさ」

ソウマ「あ、そういえば。今さあ、君たちのところに強化人間いない？
それ売り出そうとした研究所、摘発入って解体されるから。
その子の扱いに困ったら僕に連絡して。うちで保護するから。
じゃあねー」

SE:通信オフ

ヤバ「……今の、聞こえました？」

1 【7 9を見て】
2 ヨシ「いや普通に聞こえたけど。何？ なにて？ なんだって？」
3

4 【9】
5 ヤバ「や、だから依頼元が摘発されて」
6

7 【7】
8 ヨシ「聞こえたってそれは。だからそれ報酬どうなのって」
9

10 ヤバ「半額だけ先払いでもらってますけど。
11 いやそれよりどうするんですか。それ」
12

13 ヨシ「ポチ？ そりゃまあ……家に帰るんじゃない？
14 記憶戻れば帰れるっしょ。普通に……なあ？」
15

16 【ヒロイン「わからない」】
17

18 SE:否定の衣擦れ
19

20 ヨシ「わかんねーって。【笑って】お前、そればっかだな。
21 あーあ、記憶戻ったところをいじめ倒して
22 やろうと思ってたのに」
23

24 SE:ポーン系の電子音
25

26 ヤバ「うわ！ もう届いた」
27

28 ヨシ「仕事はっや」
29

30 SE:足音
31

32 SE:小さなスライドドア開く

1 【9 ヒロインに背を向けて】
2 ヤバ「こんな旧型のデバイス、まだ残ってたのか」
3

4 【7】
5 ヨシ「使えないくらい古いってこと？」
6

7 【9 7を見て】
8 ヤバ「いえ、必要十分ですね。
9 と言うか、そのものずばり、まさにこれが
10 必要だったというか……
11 まあ、軍の摘発が入ると言っていましたし、
12 ポチの脳内にあるデバイスの種類を
13 知っていたんでしょう。
14 これなら流出しても大した問題にはなりませんしね」
15

16 ヨシ「有能過ぎてうぜーわガチで。
17 【ヒロインを見て】ほらポチ、記憶戻すぞ」
18

19 S E：否定の衣擦れ
20
21 ヨシ「なに？ 戻さなくていいってどゆこと？」
22

23 【ヒロイン「どうせいい思い出じゃない」】
24

25 ヤバ【「ヒロインを見て」ああ、まあ……
26 奴隷売買を前提とした強化人間の素体になるのは、
27 大体食い詰めた貧民ですからね。
28 思い出したところで帰る家もないと思いますが」
29

30 ヨシ「はあ……じゃ、どうすんのお前。フジソウマンとこいく？」
31

32 S E：否定の衣擦れ
33

1 【ヒロイン「ここにいたい」】

2

3 【7】

4 ヨシ「ここに……いたいなら、まあ……

5 俺は別にいいけど」

6

7 【9】

8 ヤバ「まあ……普通に掃除洗濯料理やってますからね。

9 助かってますよ。普通に。いや、極めて。

10 そもそも、富裕層向けに作られた愛玩用強化人間ですよ？

11 価格で言えば企業からの報酬全額よりはるかに高い」

12

13 ヨシ「ほーん。じゃいつか。じゃあポチは今日から

14 識別番号XT-ICってこと？」

15

16 ヤバ「拷問の仕事を手伝わせるならそうでしょうが……

17 そもそもそれは軍で仕事を請け負う時の識別番号ですから、

18 普通にポチでいいのでは」

19

20 ヨシ「じゃあ識別番号ポチ」

21

22 ヤバ「はは、面白い」

23

24 ヨシ「あーあ！ なんか急に腹減ってきちゃった！

25 外に食いに行こうぜ。えーと……

26 そうだ、ポチを正式に迎えた記念で」

27

28 ヤバ「なるほど……であるならば」

29

30 【ヤバネビ、ヒロインに歩み寄る】

31

32

1 【1】
2 ヤバ「ポチ、何が食べたいですか？」
3

4 【ヒロイン「激辛ラーメン」】
5

6 【7】
7 ヨシ「え……？ お前激辛ラーメンのこと
8 本気でうまいって言ってたのか！？
9 味覚がまともな奴一人もいねーのかよ！」
10

11 【1】
12 ヤバ「時々刺激が欲しいだけで、僕の味覚はまともです。
13 ポチ、支度をしなさい。
14 ついでに女ものの服もいくつか仕入れてきますか」
15

16 ヨシ「いいね。じゃこのデバイス売って金に換えようぜ」
17

18 ヤバ「命知らずな……
19 ですが、少しは彼も怒られるべきでしょう。
20 ポチ、なんでも好きな服を買ってあげますよ」
21
22

E
N
D